

閉館?の危機

砂川美術工藝館

人間国宝だった芹沢銈介作品を、蒐集した砂川七郎氏の柏市への寄贈品を展示しているのが、この美術工藝館である。その前に、砂川氏は個人で開館されており、柏市立として平成8年に再開した。多彩な企画展でにぎわったものの、客足が落ちたため、5月いっぱい閉館するという。田の神は「寂し」くも市民の目には触れないことになる。



と書かれる。京とい
うのは孫娘の名前。
下図は今年初めま
で開かれていた「板
絵の願い・絵馬展」の
地蔵様たち。素朴な
絵が描き込まれてい
るが、絵馬に悩み・
願いを托しざるをえ
なかつた庶民の生活
がうかがえる。

ハナが咲いてゐます。
京がうたつてゐま
す。皆もうたつてま
す。東京のオヂーチ
ヤン、オバーチャン
にもきこへます。い
つも元氣一杯うた
つておどつてケチ
ヤイ。

芹沢が命名したとい
う「型絵染（かた
えぞめ）」は模様を
彫った型紙を使って
布の上に防染糊をお
き、水洗いで落とし
て模様を表わす染め
方。工程は実物で紹
介されている。
上図は最後?とな
りそうな「肉筆画展」
の一部。京都知恩院
大蔵の莊嚴飾布の豪
快な展示が目を引き
が、写真のような軽
妙な作品が楽しい。
左端には「加彩いろ
は三行」とタイトル
があり色つきのいろ
は文字が躍っている。
楽しいのは仙台に
宛てたという孫三人に
では桜の下で踊って
いる絵に、

工藝館には、年に8000人近い来館者があつたが、最近では、訪れる人のいない日もあるという。赤字である。

800点を越すという収蔵品は、別途紹介していくそうで、簡単には目に触れなくなる。「柏の美術を考える会」が総会（代表「柏わたくし美術館」館長堀良慶応）を開き、対応を検討している。

5月22日（日）まで開館。

逆井漫歩80 附録

